

ケアマネジャーは議会を目指せ！

現場の思いを形にできる地方議員に当選する方法

慢性的な人手不足、仕事内容に見合わない低賃金、融通が利かない介護保険制度……。問題が山積する介護業界の改善のため、議員になって声を上げている仲間がいること、ご存じですか。



取材協力 ▶ 宮崎 直樹さん ● 介護屋みらい代表、船橋市議会議員

みやざきなおき

介護支援専門員、株式会社介護屋宮崎代表、船橋市議会議員、一般社団法人日本単独
居宅介護支援所事業協会 ケアマネジャーを紡ぐ会代表。

「お金をかけないで選挙に当選する方法あります」

船橋市議会議員であり現役ケアマネジャーの宮崎直樹さんが、介護の勉強を始めた20年前に疑問に感じたのは介護職の待遇の悪さだった。「なぜ自分たちの待遇がこんなにもひどいのか」。介護の業界にどっぷりハマり、日ごろの業務をこなしながら考え続けて得た結論は、「介護業界には政治力が無い」ということだった。

「政治力をつけるため、私がまず始めたのは政治家と仲良くなること。10年前に独立型の居宅介護事業所を始めたのと同時くらいです」(宮崎氏、以下同)

懇意になった議員に、その都度介護の問題点をレクチャーすれば、話も聞いてくれたし、関係各所につないでもくれた。

「でもなんか形だけで、気合いが入っていない感じがして。これは自分でやるしかないと思うようになりました」

また、定期的に出席していた中小企業の社長の集まりでは、政治家を目指している人が何人もいた。理由を聞くと、自分と同じ思いを抱いている。そして、「物事を前に動かしたいなら自分でやらなきゃ」と諭され、出馬を考えるようになった。

「僕が最初に質問したことと言えば、選挙に落ちた社長さんに『選挙に落ちたらダサくないですか？』『落ちたらその後どうやって街を歩くんですか？』というものでした(笑)。そしたら『誰も俺のことなんて見てないから分かんないよ、大丈夫、大丈夫。選挙に出たことでハクが付くし、デメリットなんてないよ』と。『金かかりますよ』と食い下がると、『300～400万円くらい大したことない』と。そうか、デメリット無いならやろ

うかなと(笑)」

そこから宮崎さんが考えたのは、「お金をかけずに選挙に当選する方法」。宮崎さんが前回の選挙で最終的に払ったのは20万円ほど。出馬時に供託金として建て替える30万円(船橋市なら350票ほど獲得すれば返金)は必要だが、ポスター・チラシ代は一定枚数までなら市の助成金で賄われる。

「6月の船橋市議会議員の補欠選挙で、うちの事業所の佐藤つぐみは選挙カーも使わず、街頭演説とSNSに力を入れて10万円ほどで当選しました」

「誰でも当選できることを証明しました」

宮崎さんの目標の一つは「地方議員なら誰でも当選できる」を証明していくこと。宮崎さんが当選してからよく言われることのひとつに「宮崎だからできた」というもので、それを払拭したいとの思いで活動している。

現に、昨年10月には、愛知県岡崎市で出馬した現役ケアマネジャーの前田麗子さんが宮崎さんの勧めで出馬を決意して当選。職員20名の宮崎さんの事業所からは、今年6月に前出の佐藤さんが当選し、宮崎さん、佐藤さん、他1名の合計3名を地方議会に送り出している。

当選を確実にする宮崎さんの戦略は、一つの重要な政策や問題点のみを争点にする単一論点政党(ワンイシュー政党)の戦い方だ。たとえば、6,000人の小さな街では縁故などのしがらみの力が強く、選挙公約など政策の違いで投票者を選ぶことが難しい。しかし、人口15～20万人規模の自治体になれば知り合いなどいないも同然。そういう大きな自